

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2022年11月14日
【四半期会計期間】	第68期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）
【会社名】	サンセイ株式会社
【英訳名】	SANSEI CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小嶋 敦
【本店の所在の場所】	大阪市淀川区西宮原一丁目6番2号
【電話番号】	06（6395）2231（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 西村 直樹
【最寄りの連絡場所】	大阪市淀川区西宮原一丁目6番2号
【電話番号】	06（6395）2231（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 西村 直樹
【縦覧に供する場所】	サンセイ株式会社東京支社 （東京都千代田区飯田橋四丁目7番10号 飯田橋セントラルビル） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第67期 第2四半期 連結累計期間	第68期 第2四半期 連結累計期間	第67期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高 (千円)	1,873,361	1,996,413	4,494,579
経常利益又は経常損失 () (千円)	7,939	56,673	354,071
親会社株主に帰属する四半期純損失 () 又は親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	989	36,016	215,344
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	604	36,252	216,377
純資産額 (千円)	3,775,998	3,847,923	3,992,980
総資産額 (千円)	5,529,019	5,853,649	5,940,947
1株当たり四半期純損失 () 又は1株当たり当期純利益 (円)	0.13	4.63	27.71
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	68.3	65.7	67.2
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	318,976	367,890	177,153
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	12,670	3,226	27,696
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	31,409	161,180	55,280
現金及び現金同等物の四半期末 (期末) 残高 (千円)	1,022,784	1,329,359	1,125,764

回次	第67期 第2四半期 連結会計期間	第68期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 () (円)	1.72	0.20

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、第67期は潜在株式が存在しないため、第67期第2四半期連結累計期間及び第68期第2四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限等が緩和され、社会経済活動に正常化の動きが見られたものの、金融資本市場の変動、資源及び原材料価格の高騰や円安の進行等により、依然として先行き不透明な状況が続きました。

当社グループの係わる建設業界におきましては、経済活動正常化に伴う民間設備投資の増加が期待されるなか、原材料価格高騰による建設コストの上昇等により、厳しい事業環境となりました。

このような状況のもと当社グループは、技術力の継承に努めるとともに、継続的な設備投資を行うことで生産性の向上を図り、より一層経営基盤の強化に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

a. 財政状態

(資産合計)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は5,853百万円となり、前連結会計年度末の5,940百万円から87百万円の減少となりました。これは主に受取手形、売掛金及び契約資産が減少したこと等によるものであります。

(負債合計)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は2,005百万円となり、前連結会計年度末の1,947百万円から57百万円の増加となりました。これは主に支払手形及び買掛金が増加したこと等によるものであります。

(純資産合計)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は3,847百万円となり、前連結会計年度末の3,992百万円から145百万円の減少となりました。これは主に剰余金の配当があったこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は65.7%となり、前連結会計年度末の67.2%から1.5ポイント低下しております。

b. 経営成績

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、受注高2,867百万円（前年同四半期比25.4%増）、売上高1,996百万円（前年同四半期比6.6%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

ゴンドラ・舞台

ゴンドラ・舞台は、受注高2,012百万円（前年同四半期比14.8%増）、売上高1,480百万円（前年同四半期比8.5%増）、セグメント損失2百万円（前年同四半期はセグメント利益35百万円）となりました。

海洋関連

海洋関連は、受注高854百万円（前年同四半期比61.1%増）、売上高514百万円（前年同四半期比5.4%増）、セグメント利益84百万円（前年同四半期比27.0%増）となりました。

その他

その他は、受注高0百万円（前年同四半期比74.0%減）、売上高1百万円（前年同四半期比93.0%減）、セグメント損失1百万円（前年同四半期はセグメント利益0百万円）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前年同四半期との比較では、税金等調整前四半期純損失の計上、棚卸資産の増加、短期借入金の減少等で資金を使用しましたが、売上債権の減少、仕入債務の増加、法人税等の支払額の減少等により資金を獲得しました。これらの結果、資金は、前年同四半期連結会計期間末に比べて306百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末には1,329百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、367百万円(前年同四半期は318百万円の使用)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失が56百万円並びに棚卸資産の増加額が223百万円となりましたが、売上債権の減少額が483百万円となったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、3百万円(前年同四半期比74.5%減)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が3百万円となったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、161百万円(前年同四半期比413.1%増)となりました。これは主に、長期借入れによる収入が250百万円となりましたが、長期借入金の返済による支出が201百万円並びに短期借入金の純減額が100百万円となったこと等によるものであります。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当第2四半期連結累計期間において、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針について重要な変更はありません。

(7) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は0百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,987,700	8,987,700	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	8,987,700	8,987,700	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2022年7月1日～ 2022年9月30日		8,987,700		890,437		104,015

(5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社光通信	東京都豊島区西池袋一丁目4番10号	1,538	19.80
小嶋 敦	兵庫県川西市	877	11.28
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR: FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	612	7.88
和田 秀樹	大阪府岸和田市	338	4.35
石井 秀明	千葉県柏市	195	2.52
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	183	2.35
小嶋 悦子	大阪府豊中市	170	2.19
西村 宗一郎	大阪府貝塚市	150	1.93
サンセイ従業員持株会	大阪市淀川区西宮原一丁目6番2号	147	1.90
桜井 敏夫	滋賀県野洲市	138	1.78
計	-	4,350	55.98

(6)【議決権の状況】
【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,215,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,769,500	77,695	-
単元未満株式	普通株式 2,400	-	-
発行済株式総数	8,987,700	-	-
総株主の議決権	-	77,695	-

(注)1. 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が3,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数30個が含まれております。

2. 「単元未満株式」の「株式数」の欄には、自己株式74株が含まれております。

【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
サンセイ株式会社	大阪市淀川区西宮原一丁目6番2号	1,215,800	-	1,215,800	13.53
計	-	1,215,800	-	1,215,800	13.53

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,127,164	1,329,559
受取手形、売掛金及び契約資産	1,484,037	1,024,464
仕掛品	38,971	259,086
原材料及び貯蔵品	23,015	26,692
その他	74,296	45,898
貸倒引当金	2,078	1,971
流動資産合計	2,745,406	2,683,731
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	325,575	321,213
機械装置及び運搬具(純額)	146,133	142,747
工具、器具及び備品(純額)	41,977	47,362
土地	1,837,872	1,837,872
建設仮勘定	5,004	5,004
その他(純額)	0	0
有形固定資産合計	2,356,563	2,354,200
無形固定資産	30,877	30,705
投資その他の資産		
投資有価証券	227,751	226,612
繰延税金資産	63,554	87,883
保険積立金	419,749	366,704
その他	97,043	103,812
投資その他の資産合計	808,100	785,012
固定資産合計	3,195,541	3,169,918
資産合計	5,940,947	5,853,649

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	555,688	618,635
短期借入金	130,000	30,000
1年内返済予定の長期借入金	218,504	50,170
未払法人税等	10,683	12,319
賞与引当金	118,089	112,254
役員賞与引当金	7,200	-
工事損失引当金	220,873	246,996
その他	197,681	239,023
流動負債合計	1,458,720	1,309,398
固定負債		
長期借入金	126,640	343,222
退職給付に係る負債	299,070	289,290
その他	63,535	63,815
固定負債合計	489,246	696,328
負債合計	1,947,966	2,005,726
純資産の部		
株主資本		
資本金	890,437	890,437
資本剰余金	104,015	104,015
利益剰余金	3,412,767	3,267,945
自己株式	418,589	418,589
株主資本合計	3,988,631	3,843,809
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,349	4,113
その他の包括利益累計額合計	4,349	4,113
純資産合計	3,992,980	3,847,923
負債純資産合計	5,940,947	5,853,649

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)
売上高	1,873,361	1,996,413
売上原価	1,490,954	1,638,108
売上総利益	382,407	358,305
販売費及び一般管理費	403,193	417,604
営業損失 ()	20,786	59,299
営業外収益		
受取利息	244	246
受取配当金	509	550
保険解約返戻金	2	6,007
その他	30,670	3,193
営業外収益合計	31,426	9,998
営業外費用		
支払利息	2,364	2,030
保険解約損	-	3,709
その他	336	1,631
営業外費用合計	2,701	7,371
経常利益又は経常損失 ()	7,939	56,673
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失 ()	7,939	56,673
法人税、住民税及び事業税	5,139	3,567
法人税等調整額	3,788	24,224
法人税等合計	8,928	20,657
四半期純損失 ()	989	36,016
親会社株主に帰属する四半期純損失 ()	989	36,016

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純損失()	989	36,016
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	385	236
その他の包括利益合計	385	236
四半期包括利益	604	36,252
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	604	36,252
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	7,939	56,673
減価償却費	35,428	34,961
工事損失引当金の増減額(は減少)	24,572	26,123
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	3,478	9,780
受取利息及び受取配当金	754	796
支払利息	2,364	2,030
有形固定資産除売却損益(は益)	0	1,332
売上債権の増減額(は増加)	326,389	483,890
棚卸資産の増減額(は増加)	55,874	223,792
仕入債務の増減額(は減少)	294,019	43,971
その他の固定負債の増減額(は減少)	12,828	280
その他	153,067	69,829
小計	139,858	371,376
利息及び配当金の受取額	1,544	1,581
利息の支払額	2,226	2,140
法人税等の支払額	178,436	2,926
営業活動によるキャッシュ・フロー	318,976	367,890
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(は増加)	4,700	1,200
有形固定資産の取得による支出	17,912	3,492
その他	541	934
投資活動によるキャッシュ・フロー	12,670	3,226
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	100,000	100,000
長期借入れによる収入	100,000	250,000
長期借入金の返済による支出	121,752	201,752
配当金の支払額	108,498	108,714
その他	1,158	713
財務活動によるキャッシュ・フロー	31,409	161,180
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	111
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	363,051	203,595
現金及び現金同等物の期首残高	1,385,835	1,125,764
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,022,784	1,329,359

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
役員報酬	82,810千円	74,140千円
給料及び手当	146,971	150,121
賞与引当金繰入額	29,620	30,566
退職給付費用	10,550	9,573
減価償却費	1,486	1,574

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金及び預金勘定	1,022,984千円	1,329,559千円
預入期間が3か月を超える定期預金	200	200
現金及び現金同等物	1,022,784	1,329,359

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	108,805	14	2021年3月31日	2021年6月30日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	108,805	14	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ゴンドラ・ 舞台	海洋関連	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,364,067	488,503	1,852,571	20,790	1,873,361
セグメント間の内部売上高又は振 替高	-	-	-	7,102	7,102
計	1,364,067	488,503	1,852,571	27,892	1,880,463
セグメント利益	35,910	66,452	102,363	982	103,345

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業機械の製造販売及びビル管理事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	102,363
「その他」の区分の利益	982
全社費用(注)	124,132
四半期連結損益計算書の営業損失()	20,786

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ゴンドラ・ 舞台	海洋関連	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,480,145	514,808	1,994,954	1,459	1,996,413
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	5,404	5,404
計	1,480,145	514,808	1,994,954	6,863	2,001,818
セグメント利益又は損失()	2,854	84,409	81,554	1,115	80,439

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業機械の製造販売及びビル管理事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	81,554
「その他」の区分の損失()	1,115
全社費用(注)	139,739
四半期連結損益計算書の営業損失()	59,299

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

財又はサービスの種類別の内訳

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ゴンドラ・ 舞台	海洋関連	計		
設計・製造販売・据付	324,949	-	324,949	20,790	345,739
保守・修理	855,136	488,503	1,343,640	-	1,343,640
仮設ゴンドラレンタル	183,982	-	183,982	-	183,982
顧客との契約から生じる収益	1,364,067	488,503	1,852,571	20,790	1,873,361
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	1,364,067	488,503	1,852,571	20,790	1,873,361

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業機械の製造販売及びビル管理事業等を含んでおります。

収益認識の時期別の内訳

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ゴンドラ・ 舞台	海洋関連	計		
一時点で移転される財又はサービス	855,955	488,503	1,344,459	7,870	1,352,329
一定期間にわたり移転される財又はサービス	508,112	-	508,112	12,920	521,032
顧客との契約から生じる収益	1,364,067	488,503	1,852,571	20,790	1,873,361
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	1,364,067	488,503	1,852,571	20,790	1,873,361

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業機械の製造販売及びビル管理事業等を含んでおります。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
 財又はサービスの種類別の内訳

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ゴンドラ・ 舞台	海洋関連	計		
設計・製造販売・据付	459,485	-	459,485	1,459	460,944
保守・修理	823,689	514,808	1,338,498	-	1,338,498
仮設ゴンドラレンタル	196,970	-	196,970	-	196,970
顧客との契約から生じる収益	1,480,145	514,808	1,994,954	1,459	1,996,413
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	1,480,145	514,808	1,994,954	1,459	1,996,413

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業機械の製造販売及びビル管理事業等を含んでおります。

収益認識の時期別の内訳

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ゴンドラ・ 舞台	海洋関連	計		
一時点で移転される財又はサービス	821,398	514,808	1,336,207	-	1,336,207
一定期間にわたり移転される財又はサービス	658,746	-	658,746	1,459	660,205
顧客との契約から生じる収益	1,480,145	514,808	1,994,954	1,459	1,996,413
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	1,480,145	514,808	1,994,954	1,459	1,996,413

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業機械の製造販売及びビル管理事業等を含んでおります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり四半期純損失()	0円13銭	4円63銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	989	36,016
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	989	36,016
普通株式の期中平均株式数(株)	7,771,826	7,771,826

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月11日

サンセイ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高見 勝文

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中田 信之

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているサンセイ株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、サンセイ株式会社及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。